



# 都高P連会報

発行：東京都公立高等学校 PTA 連合会(都高P連)  
編集：都高P連 調査広報委員会

事務局：〒101-0048 東京都千代田区神田司町 2-7-6 鈴木ビル 3F  
TEL：03-3294-0281 FAX：03-3294-0283

## 広報紙コンクールで 十六校が各賞を受賞！

平成二十二年五月十三日(木) 国立オリンピック記念青少年センターにて、「第32回広報紙コンクール表彰式」が行われました。広報紙コンクールは、毎年三月に各学校から、年度内に発行した広報紙のなかで一番の自信作を送ってもらい、特に優れた広報紙に、「教育委員会賞」、「校長協会賞」、「会長賞」、「特別賞」の各賞を授与しています。

今年度は加盟校以外にも参加を呼びかけたところ、全都から六十七部の応募がありました。審査方法は、記事の内容、紙面構成、テーマ、読みやすさの各要素を、それぞれ5点満点で採点します。審査員は、都高P連会長、副会長、各地区からの代表の計十二名。応募された広報紙はどれも学校のカラーがよく出ていたり、紙面が工夫されていたり、素晴らしいものでした。

審査結果は別表のとおりですが、今年も審査は難航しましたが、年々レベルが高くなっていることを実感します。コンクール当日には、各学校の広報紙も展示されました。二十二年度も、会員の皆さまに喜んでもらえる広報紙が作られることを願っています。

受賞校の皆様、おめでとうございます。

### 受賞の言葉

教育委員会賞受賞を先生方やPTAメンバーみんなが喜んでくれたことは、何よりうれしかったです。誌面を通して井草高校の生徒、先生、PTAの思いや活躍、成果を井草高校中に届ける！をモットーに作成しています。みんなが発行を楽しみにしてくれているので、委員は張り切って取材に飛び回っています。(井草高校会報委員会委員長 勝股康子)



審査員のトップ評価だった井草高校の広報誌「井草」

### おめでとうございます！

～受賞校一覧

受賞名	学校名	地区名
教育委員会賞	井草高校	中部北
教育委員会賞	葛飾総合高校	東部北
教育委員会賞	南平高校	西部南
校長協会賞	文京高校	中部北
校長協会賞	武蔵丘高校	中部北
校長協会賞	西高校	中部南
会長賞	八王子東高校	西部南
会長賞	農業高校	西部南
会長賞	鷺宮高校	中部北
特別賞	国立高校	西部南
特別賞	三鷹高校	中部南
特別賞	農芸高校	中部北
特別賞	竹早高校	東部北
特別賞	工芸高校	東部北
特別賞	小平南	西部北
特別賞	大島高校	島嶼



葛飾総合高校「葛希」、南平高校「かんあおい」も高い評価

# 東京大会が無事、終了しました

## みなさまのご協力に感謝いたします！

「人間力を育てて作ろう大きな輪―家庭・学校・地域・社会 心と心をつなげよう―」をテーマに、『第60回全国高等学校PTA連合会大会 東京大会』が、八月十九日から二十一日まで開催されました。記録的な猛暑の中、日本全国から一万千五百人ものPTA関係者が参加し、熱気あふれる大会になりました。

まず十九日は、国立オリンピック記念青少年総合センターで、「大会運営会議」、「分科会別会議」とレセプションが開催され、大会運営に関するさまざまな確認や打ち合わせが行われました。

レセプションでは大会運営に関わる役員や分科会事例発表者が参加しました。

一方、メイン会場となる日本武道館では、一万千五百人分の資料の袋詰め作業が、朝十時から夕方まで行われました。大会要項は6トン・トラック二台分、その他十八種類の封入物をトラックから降ろしたり、仕分けたりして、ブルーの資料バックにセットする作業を約二百五十名で行いました。

### スムーズな移動ができた

二十日は、いよいよ本番です。日本武道館では開会式に先立ち、片倉高校吹奏楽部の演奏、府中西高校の合唱、深沢高校の和太鼓のアトラクションが行われました。いずれも来場者からは、「さすが東京の高校生は、レベルが高い」と絶賛されました。

開会式の後には、トヨタ自動車会長の張富士夫氏による基調講演。

「今の新社会人の長所・短所

企業が求める有為な人材とは」をテーマに張氏がトヨタ自動車に入社して経験したこと、学んだことから、若い人へのアドバイスとエールをいただきました。

昼食は、「お弁当レシコンクール」で最優秀賞を受賞した「われら江戸っ子」弁当。東京都の特産品がふんだんに使われており、参加者に好評でした。

お昼休みを利用して、各地区で予選をし、五月五日の豊島公会堂での本選で優勝した小川高校のバンドと、富士森高校のダンスが披露されました。東京の高校生のパワーを全国の方に見ていただくことができました。

昼食後は、都内七会場に分かれての分科会でした。公共交通機関（主に地下鉄）を使つての移動には、かなり不安がありました。が、当日スタッフとしてお手伝いしてくださった皆さまの協力もあり、予想よりもスムーズに移動ができ、各分科会ともほぼ時間通りに開催できました。

翌二十一日は再び日本武道館に戻り、閉会式です。南平高校吹奏楽部の演奏、農業高校服飾科の生徒によるファッションショー、府中東高校の和太鼓のアトラクションが行われました。生き生きとした生徒の発表に会場からは、暖かい拍手が送られました。

閉会式では、高間大会会長の挨拶



開会式前に演奏する片倉高校吹奏楽部



メイン会場の日本武道館に11500人が集まった



張富士夫・トヨタ自動車会長による基調講演



深沢高校による和太鼓の熱演



# 第60回

# 全国高等学校PTA連合会大会

# 全報告

授の後、高橋多佳子・東京大会実行委員長が、「大会宣言」を読み上げ、会場の拍手をもって採択されました。

連合会旗が東京から全高P連へ返還された後、全高P連から次回開催地である北海道へ授与されました。北海道大会は、「いのち輝け！」をメインテーマに、二〇一一年八月二十四日から開催されます。

### 感動的だった第九の大会唱

今年60回を迎えた全国大会。毎回節目の年の大会は東京で開催されてきました。

その全国大会も、開催意義や、役割をもう一度見直す時期でもあり、また、都高P連も課題を抱えている中で、大会開催でした。

そこで、「ここ東京から何か全国に向けて発信できることをやりましょう」と、というのがクロージングアトラクションのきっかけでした。

毎年全国大会には多くの参加者がありますが、残念ながら最後まで会場に居る人が少なく、閉会式には会場がガラガラと言う状況がここ数年問題にもなっていました。「参加者が最後まで居てくれるようなイベントを」と、いうことで考えたのが合唱でした。

そして第九は、難聴を抱えていたベートーベンがシラーの詩に感動して、自身と重ね合わせながら、『苦悩を突き抜けて歓喜に至れ』とのテーマで作ったものと言われており、課題の多い都高P連に

は、まさにピッタリの曲。さらに、歓喜を実感できるようなドイツ語で挑戦しました。当初は十人くらいでの練習でしたが、回を重ねるごとに参加者は増えて、感動的な大会唱になりました。

大会実行委員会は平成二十一年六月に第1回実行委員会を開き、その後、回数を重ねて準備をしてきました。

平成二十年には不正会計問題が発覚し、大きなダメージを受け退会校が増加。財政的にも、人数的にも厳しい状況であったにも関わらず、なんとか東京大会を成功に導くことができたのは、「PTAは子どもたちのためにある。子育ては親育て、私達が頑張ることで子どもたちにもきつと何か伝えられるはず」を合言葉に、みんなが頑張ってきたからです。

この貴重な経験を今後の都高P連の活動にいかにつなげていくか。新たな課題と言えらるでしょう。



開会式で挨拶する高橋多佳子・東京大会実行委員長

## 分科会会場と担当地区

### 第1分科会(日本武道館) 学校教育とPTA

『学校からの発信と親の思いを繋ぐPTA活動』(西部北)

### 第2分科会(日本青年館) 進路指導とPTA

『何のための進路支援? 自立への第一歩!』(中部北)

### 第3分科会(東京大学安田講堂) 生徒指導とPTA

『今、求められる規範意識とは何か?』(東部北)

### 第4分科会(日比谷公会堂) 家庭教育とPTA

『大丈夫! 保護者が変われば子どもも変わる』(中部南)

### 特別第1分科会(九段会館)

### 学校改革に対してのPTA全国意見交換

『多種多様なタイプの学校とPTAの取り組み』(西部南)

### 特別第2分科会(早稲田大学大隈講堂)

### 高校生自らの企画運営によるディスカッション

『今、子どもは何を考えているのか? 親は何を思っているのか?』

(東部南)

### 特別第3分科会(昭和女子大学人見記念講堂)

### キャリア教育とPTA

『多様化する社会の中で、今求められるキャリアとは』

(キャリア教育委員会)



クロージングアトラクションは「第九」の大会唱



連合会旗が北海道P連に手渡された

# 平成二十二年度 定期総会が開催されました

平成二十二年六月十一日(金)国立オリンピックピック青少年センター一〇二号室にて、平成二十二年度定期総会が開かれた。

芝田副会長の開会宣言で始まった総会は、定足数百六名のうち、出席六十六名、委任状十六名、計八十二名で、会則第3章11条4項により成立が宣言された。

その後の会長挨拶で、高橋会長は、五月五日豊島公会堂で決勝戦が行われたK音&ダンスグランプリを目指して60回大会準備に励む各単位PTA、地区の様子を取り上げ、PTA活動の原点の姿を見る思いがしたと語った。

続いて都教育庁地域教育支援部主任社会教育主事 江上真一様、東京都立高等学校副校長 会長 玉井篤様よりご挨拶を賜った。その後審議へと進んだ。

【平成二十一年度議事】

【第1号議案】

「平成二十一年度事業報告」

高橋会長より活動の報告がなされた。質疑応答後の採決にて七十名の出席者のうち、賛成六十九名、白票一名で可決。

【第2号議案】

「平成二十一年度会計報告」「東京大会予算書」ならび「監査報告」

本間副会長より会計報告、東京大会会計の宮下会計より予算書の説明、二十一年度監事の小野さんより監査結果報告。採決にて七十一名の出席者のうち、賛成七十一名で可決。

【報告事項】

「平成二十二年年度会長選挙結果報告」

登選挙管理委員より報告。東部南地区が加盟四校になることに伴い、副会長数の変更(六↓五)、東部地区一本化への緩やかな移行につき「会則規定」の変更を五月十三日の臨時総会で承認され、改訂している経緯を報告。

その後高橋会長より、平成二十一年度の都高P連運営を担ってくれた副会長、地区長、理事、評議員を紹介し労をねぎらった。

【平成二十二年年度議事】

今回の総会では、二十一年度で退会・閉校閉課程する学校があるため、後半の審議に入る前に、再度定足数の確認を行い、定足数九十八名のうち、出席七十一名、委任状十四名、計八十五名で、会則第3章11条4項により成立。

【第3号議案】

「平成二十二年度事業計画案」

高橋会長より説明。七十一名

の出席者のうち、賛成七十名、白票一名で承認。

【第4号議案】

「平成二十二年年度予算案」

本間副会長より説明。加盟校増加に向けての質問を受け、陳情など都行政への働きかけも都高Pとして行っていくが、恩恵は全ての都立高校が受けることを未加盟校へ丁寧説明していくことを芝田副会長から説明。

七十一名の出席者のうち、賛成七十一名で承認。

その後高橋会長より、平成二十二年年度の都高P連運営を担う副会長、地区長、理事、評議員を紹介。等しく責任ある立場であることを参加者の前で確認した。

以上で平成二十二年年度定期総会の議事はすべて終了した。

今年度は60回東京大会についての説明・報告も含めての議事進行であったため、若干複雑になってしまった。

都高P連執行部が情報を周知する努力、運営委員が主体者として地区に情報をおろす努力、双方の連携が活動の活性化の肝になることは間違いない。傍観者的な批判だけではなく、気づいた人こそが発言し行動する、ここに課題を打開する道があると考える。

通常の活動と大会準備業務とのバランスをとりつつ、どのように捌いていくか。難しい運営だが、反面、飛躍への試金石にもなる、と前向きにとらえたい。



定期総会で挨拶する高橋多佳子・都P連会長



平成22年度事業計画案、予算案は承認された

# 都高P連 平成22年度の展望

会長 高橋多佳子



全国高等学校PTA連合会大会東京大会を無事に開催できた背景には、東京都(都教育庁)、校長協会との緊密な連携がありま  
す。両者の後援をいただいで大会準備を進めてきた中で、学校教育現場の手厚いご理解ご協力と、単位PTA保護者の熱いご支援が加わって実現したのが「K音&ダンスグランプリ」です。

また、「キャリア教育」の展開という視点では、三年にわたり保護者の意識啓発を図り、大会に先駆け七月十日に「東京地区大会」でプレ的な学習をし、全国大会では特別第3分科会で一層深い取り組みをいたしました。

さて、都高P連は社会教育団体として、東京都から一定の評価をいただいております。

家庭、学校、地域、社会を結ぶPTAの役割を確認する取り組みとして、以下二点の具体的な活動計画を提出し、補助金をいただいで事業展開しております。

今年度は特に地区PTA連合会に広がりをもった活動の中で「発表の機会が少ない部活動や文化活動を対象としたグランプリ大会」を展開してまいりたいと考えます。また、キャリア教育のさらなる深化を目指してアンケートを実施することとし、「保護者の人材分布情報調査」によって人材の宝庫たるPTAの力をより活性化したいと考えます。

またすでに今年度の活動の方向性を六月十一日の定期総会では「平成二十二年度事業計画」の中

## 大会宣言

### 一.子どもたちの「命」と「身体」を守る。

我々は PTA 活動を通して家庭、学校、地域と連携し、子どもたちの生きる力を育み、自らの「命」と「身体」を守る知識と術を身につける活動を支援する。

### 一.子どもたちの精神的・社会的「自立」を促す。

我々は PTA 活動を通して家庭、学校、地域と連携し、子育ての究極の目的が子どもたちの精神的・社会的自立にあることを保護者に発信し啓発活動を行う。

### 一.子どもたちの育つ「場」や「機会」を支援、提供する。

我々は PTA 活動を通して家庭、学校、地域と連携し、子どもたちに内在するさまざまな能力を発揮し開花させる「場」や「機会」を提供する。

### 一.子育ては親育て、子どもたちが身近に接する親、保護者が自らの「人間力」の向上に努める。

我々は PTA 活動を通して家庭、学校、地域と連携し、「子育ては親育て、まずは我々自身が育つこと」を自覚し、視野を広げ、自らの「人間力」を高める活動を推進する。

### 一.社会的な仕組みの整備、改善、向上への働きかけを行う。

我々は、上記の活動の中で、さまざまな社会的な仕組みの整備、改善、向上が必要と判断されるものに対し、関係諸団体への働きかけを行い整備改善に努める。

第 60 回全国高等学校PTA連合会大会東京大会において宣言する。

(※前文を省略しています)

で「具体的な活動内容」としてお示ししております。

「地区を主体とした活動の一層の定着、活性化に主眼をおき、都高P連本体の活動のスリム化を含む単位PTA活動の充実」「都に対して、都立高校への設備・機材を含む教育環境の充実に対する実効性ある施策を求めていく」「キャリア教育の充実」「広報活動の充実」「組織の整備、財務の整備」の五点を活動の柱と掲げました。具体的には所管の委員会活動をベースに推進しております。活動の進捗は随時ご報告していきます。

す。どうぞご意見要望をお寄せください。

以上は、今大会の閉会前に賛同いただいた「大会宣言」に集約されていることを、あらためて強調させていただきます。

大会で培った地区単位PTA間の連携、学校との緊密な協力関係、都教育庁、校長協会からのご支援ご助言の太いパイプを大きな財産として、子どもたちの教育環境のさらなる整備に向けて、最高の応援団であり続けたいと思っております。どうかよろしくお願ひします。

## AIUの高校生総合保障制度

(こども総合保険)

私共AIUは、日本で営業を開始して早や64年が経ちました。

学校・PTAを通じた保障制度にも25年以上ものあいだ積極的に取り組み、おかげさまで全国22,000校以上の学校・PTAにて学生総合保障制度をご採用いただいております。

社会貢献事業「高校生国際交流プログラム」



地球の未来にできること。  
マングローブ「海の森」づくりは、  
その答えのひとつです。

東京海上日動火災保険株式会社 <http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/>

森が戻ってきた。  
鳥や虫や動物が戻ってきた。  
みんなに笑顔が、戻ってきた。



インドネシア熱帯林の再生プロジェクト  
きっかけは、私たちが毎日使っている紙の原料となる木材を少しでも地球に返したいという思い。  
たくさん生き物が暮らす森を取り戻すことで地球温暖化を防ぎ、生物多様性を守ること。  
そして、地元の人々の生活を助けること。  
地元の子どもの明るい笑顔を通して私たちはこれからも、未来を育む活動をつづけていきます。



MS&AD 三井住友海上  
三井住友海上火災保険株式会社  
[www.ms-ins.com](http://www.ms-ins.com)

### 細かいところでもほめられたい。

保険をもっと便利にもっと身近に、もしもの時にお客さまを守る個人用自動車総合保険「ONE-Step」やインターネットによる契約と行き先別にリスクを細分した新・海外旅行保険「off! (オフ)」など。  
あつらいいな、をカタチにする柔軟な発想ときめ細やかなサービス。21世紀、日本の新しいライフスタイルに合った高品質の安心を力強く、ご提供します。

### 株式会社 損害保険ジャパン

〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1 TEL. 03(3349)3111  
ホームページアドレス <http://www.sompo-japan.co.jp>  
[SJO5-12524 (2006.3.1)]



# 地区大会報告

## 「未来を創るキャリア教育と子どもと地域を育む PTA」

(平成22年7月10日 日比谷高校星陵会館にて)

平成二十二年七月十日、日比谷高校星陵会館において、「未来を創るキャリア教育と子どもと地域を育むPTA」をテーマに、第22回東京地区大会が開催されました。

東京地区大会は八月二十日、二十一日開催の第60回全国高等学校PTA連合会大会東京大会特別第3分科会に連動するもので、当日は百八十名の参加者が集まり、基調講演とパネルディスカッションが行なわれました。

基調講演では、独立行政法人労働政策研究・研修機構キャリアガイダンス部門副主任研究員で「キャリア教育の心理学」の著者下村英雄先生よりお話しいただきました。先生は、キャリア教育を列車と自動車に例えられ、かつてのようなレールに乗せれば何とかなった時代から、今は就職後も様々な道を選んで走る自動車の時代が変わっており、自立し自分で運転する技術(キャリア教育)が不可欠であると説かれました。

子どもの「働くこと」に関する相談先は、七割が親、五割が友達で、親から影響を受けた子どもと正規社員となる確率が高く、友達の影響を受けた子どもほど非正規社員・フリーターとなる確率が高いという研究結果には、場内からどよめきがおきました。

また、親の「子どもがいてよかった」という一言は、子どもの自己肯定感に繋がり、子どもの社会参加を促すとの指摘に、家庭の重要性を再確認しました。

現在の学校でのキャリア教育は、①遂行行動の達成(実際にやってみる)、②代理的体験(やっている人を見る)、③言語的説得(やっていると聞く、本を読む)、④情動的喚起(不安を取り除く)を理論的背景としています。これらは学校だけでは成しえず、保護者や地域の連携が不可欠で、このような連携は、将来の社会の担い手である若者を育てるセーフティネットとなることでした。

### キャリア教育に対する 認知は低く連携も不足

続くパネルディスカッションでは、神奈川県立自由が丘高校の元校長、桜美林大学アドミッショセンター顧問の川田先生の進行で、日比谷高校(白田進路部長)、久留米西高校(上野副校長)より学校の取組事例が、また、都高P連(山口前副会長)からは、本年三月実施のキャリア教育アンケートの結果が紹介され、学校でのさまざまな工夫、それらの取組に対する保護者の認知度の低さ、連携の不足などが確認されました。

参加者からは、「キャリア教育の重要性がわかった。この話を単Pに持ち帰り、もっと大人が自分のキャリア(仕事)について子どもたちに伝えて行かなければ！」との力強い意見が述べられました。また、「笑わせることもキャリア教育ではないか?」との問いに、下村先生からユーモアあふれるコメントをいただくなど、和気あいあいとした素晴らしい講演会となりました。



パネルディスカッションでは下村英雄労働政策研究・研修機構副主任研究員ほか5名が登壇した



180名が参加し熱心に聞き入った

# 平成22年度 単P・地区の活動

## 武蔵丘高校 武陵会研修「バリ島のケチャ体験」

芸能山城組の方々に「ケチャ」を手ほどきいただき、一緒に「ケチャ」を楽しみます。「ケチャ」は、楽器を使わずに5つのパートから成るリズム合唱で表現される合唱部分と、ラーマ―ヤナ物語を題材とするバリ島の踊りを組み合わせた舞踏劇です。

**日時:**平成22年10月17日(日) 午後2時から4時半(受付開始は午後1時半) **場所:**武蔵丘高校 体育館(中野区上鷲宮 2-14-1 TEL 3999-9308)

**参加費:**無料 **持ち物:**体育館履き、飲み物(※動きやすい服装でご参加ください。スカートは避けてください)

申込み・問い合わせ先:武蔵丘高校武陵会

副会長:水流(つる) E-mail:hiiragi@gmail.com

## 10月以降に開催される文化祭

西部北	田無工業高校	田無工祭	10月30日、31日
中部北	練馬工業高校	櫛祭	10月22日、23日
	農芸高校	農芸祭	11月13日、14日
中部南	園芸高校	園芸展	11月6日、7日
東部北	工芸高校	工芸祭	10月30日、31日
	蔵前工業高校	蔵工祭	10月30日、31日
	荒川工業高校	荒工祭	10月30日、31日
	足立工業高校	足工祭	10月29日、30日
	荒川商業高校	荒商祭	10月23日、24日
	農産高校	農産祭	11月6日、7日
東部南	蒲田高校	くすのき祭	11月5日、6日 (一般公開は6日)
島嶼	大島高校	学校祭	11月13日、14日

「役員になり手が多すぎる!」  
「PTA“応援団”を募集」など  
発見が多かった意見交換会  
(十月二日の全都会長会にて)

全都で会長会を実施する際に、喫緊の課題をテーマを掲げ、出席者が各十人程度のグループに分かれてフリーディスカッションする企画が大変好評を博しています。

十月二日オリンピック青少年センターで行われた全都会長会の際も、和やかな中にも、活発で真剣な討議が行われました。単位PTAに持ち帰って、日常の活動の参考にしていききたい内容が報告されました。

意見交換のテーマは三つ。①PTA活動に一般保護者が参加するための工夫(イベントなど)、②高校授業料無償化にともなう、PTA会費の徴収の工夫、③自転車事故防止、および雨具の対策など、でした。それぞれグループの発表の中から、興味深いコメントを挙げます。

①PTA活動に対する関心の低さは、多くの単Pの悩みなのではないでしょうか。その対応策には「なかなか良策が見つからない」というのが発表者に共通の声でした。

「バス研修」、「体験型講座」、「講演会」などは、多くの単Pが実施しています。

「ミュージカルの観劇とランチをセットにして、楽しく交流を図る」、「ホームページを利用して保護者に呼びかける」など、みんな工夫しています。

場内がどよめいたのは、「なり手が多く、役員が一〇〇人以上いる」という西

高校のケースでした。保護者の意識が高いからなのか、理由や背景をくわしく知りたいと思いました。

興味深かったのは、東大和高校の事例で、「年度初めに、役員とは別に、PTA行事の“応援団”を募集する」というもの。昨年度から始めて、のべ百二十人ほどが応援団に加わったそうです。お礼として「東大和応援団」のロゴ入りマグネット・ワッペンがもらえるとか(会計さんの手作りだそうです)。真似してみようかな、と思わせるアイデアですね。

②PTA会費の徴収については、多くが「銀行引き落としだから問題は無い」というものの、徴収以前の問題が指摘されました。

「PTAに加入するかどうかの承諾書を取らなければならない」という都の指導がある」というものです。これについては、事実の確認が必要かもしれません。また、PTA事務に専任スタッフを雇用している高校が少なからずあったことが、出席者の驚きを誘っていました。

③自転車への対応については、「警察とスタントマンによる交通安全教室を実施している」という高校がありましたが、そのような予防的な教育施策を除けば、あまり良策はないようでした。「少々の雨なら、傘をさして行ってしまう」。小・中学生ではありませんから親の管理には限界があるようです。

PTA運営に関わる意見交換は、どの高校も苦勞があるだけに、傾聴に値する施策やアイデアが非常にたくさんあり、たいへん意義のある時間でした。

【寄稿】

# 都高P連に期待します

うるま まさのり  
閏間 征憲

(東京都公立高等学校長協会会長)  
(東京都立町田高等学校長)

第60回全国高等学校PTA連  
合会大会東京大会の成功、おめで  
とうございます。

都高P連においては、この二年  
間、組織運営体制の構築に取り組  
む中、全国大会への準備を進める  
という、困難度の高い組織運営  
を、見事に克服し、成功を収めま  
した。改めて敬意を表し、拍手を  
送ります。

さて、各学校のPTAは生徒達  
により良い教育環境をつくるため  
に、さまざまな学校支援をいただ  
いております。都高P連には、これ  
らの各学校PTAとの一層の連携  
強化を図り、教育環境の改善にお  
力添えをお願いいたします。

生徒の成長の基礎は、家庭であ  
ります。近年、保護者の規範意識  
や社会性の低下が指摘され、深  
刻な経済状況の悪化とともに、そ  
の教育力の低下への影響が懸念さ  
れます。家庭教育の弱体化が学  
校教育自体を揺るがしつつあるこ  
とが実感されます。

いまこそ、学校を良くしていく  
ためには、保護者の理解と協力が  
必要であり、家庭教育が重要であ  
るといえます。

「親が変われば子供が変わり、学  
校が変わる」。ここに、PTA活動  
の重要性があります。PTA活動  
が保護者同士を成長させる場と  
なり、ひいては家庭や学校教育の  
改善につながるのです。

社会の変化に伴い、多様化によ  
る価値観の変容により保護者の

意識が大きく変化してきていま  
す。遺憾ながら家庭、地域社会の  
教育力の低下を認識せざるをえ  
ません。

現在の保護者世代が「協力する  
こと」を積極的に教えられず、自  
由や個人への志向に偏り、平等主  
義の悪影響があるようにもわか  
がえます。一方で、学校も強く指  
導できない時代です。

各学校PTAは少なからず、次  
のような実態を抱えています。

①組織や活動形態が旧態依然  
であり、保護者との意識に乖離が  
ある

②教職員との関係性が希薄に  
なり、積極的協力関係を築けない

③役員からの逃避傾向が強く、  
PTA組織への信頼度と協力度が  
低い

まずは、一人一人の保護者の意  
識を変えること。生徒のため  
に、親が変わることです。

「親が変われば子供が変わり、  
学校が変わる」。繰り返すと  
なりますが、このキーワードの実践が  
すべてです。

一人ひとりの親が認識を変え、  
行動を起こすことができるPTA  
組織をつくることです。

## 「子育ては親育て まずは我々自身が育つこと」

まずは、学校の実態を知るこ  
と、そして、一人一人の意見を吸  
い上げ、学校への要望など、学校  
改善策を提示すること、次に、学

校以上に、地域を変える、その中  
心的な組織になることです。その  
ためにも、校長・学校との連携強  
化を図り、組織や活動内容等の  
弾力的運営ができるPTA活動に  
することが重要です。

良い学校づくりのためには、保  
護者の参画と地域との連携を柱  
に、あらゆる機会を通して啓発活  
動や参加の価値観づくりを進めて  
いくことが必要です。これは教育  
基本法にも「学校、家庭及び地域  
住民その他の関係者は、教育にお  
けるそれぞれの役割と責任を自  
覚するとともに、相互の連携及び  
協力に努めるものとする」とある  
ことから明らかです。

東京大会のサブテーマは、「家  
庭・学校・地域・社会 心と心をつ  
なげよう」でした。高橋会長は大  
会挨拶の中で、「子どもの問題を  
個々の家庭や学校の問題とのみと  
らえず、家庭、学校、地域が連携  
し社会全体で解決していく課題」  
があるとされ、「子育ては親育て、  
まずは我々自身が育つこと」が大  
事であると述べています。

大変重要な指摘であり、この基  
本的な方針で都高P連をリード  
し、成果をあげられることを期待  
します。



## 目次

広報紙コンクールで十六校  
が各賞を受賞 …… 1

第60回全国高等学校PTA  
連合会大会東京大会全報告 …… 2・3

平成二十一年度定期総会が  
開催されました …… 4

都高P連  
平成22年度の展望 …… 5

地区大会報告「未来を創るキ  
ャリア教育と子どもと地域  
を育むPTA」 …… 6

平成二十二年度、単P・地区  
の活動 …… 7

寄稿・都高P連に期待します  
…… 8

編集後記▼本年度第1号の広報紙  
をお届けいたします。猛暑の夏は東京  
大会の準備に追われましたが、日本武  
道館の裏側を見られたのは、貴重な  
経験でした。▼都高P連会報は皆さま  
との間の双方向メディアです。学校行事  
やPTA行事の情報、全体で共有できる  
経験や知恵を、ぜひお寄せください。次  
号は12月末に発行します。